

(19) 日本国特許庁(JP)

## (12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第4372867号  
(P4372867)

(45) 発行日 平成21年11月25日(2009.11.25)

(24) 登録日 平成21年9月11日(2009.9.11)

(51) Int.Cl.

F 1

G 11 B 7/24 (2006.01)

G 11 B 7/24 565 A

G 11 B 7/007 (2006.01)

G 11 B 7/24 565 D

G 11 B 7/135 (2006.01)

G 11 B 7/24 565 M

G 11 B 7/007

G 11 B 7/135

Z

請求項の数 6 (全 14 頁)

(21) 出願番号

特願平10-301965

(22) 出願日

平成10年10月23日(1998.10.23)

(65) 公開番号

特開2000-132868(P2000-132868A)

(43) 公開日

平成12年5月12日(2000.5.12)

審査請求日

平成17年10月13日(2005.10.13)

(73) 特許権者 000005016

パイオニア株式会社

東京都目黒区目黒1丁目4番1号

(74) 代理人 100063565

弁理士 小橋 信淳

(72) 発明者 村松 英治

埼玉県所沢市花園4丁目2610番地 パイオニア株式会社所沢工場内

(72) 発明者 加藤 正浩

埼玉県所沢市花園4丁目2610番地 パイオニア株式会社所沢工場内

(72) 発明者 佐藤 充

埼玉県鶴ヶ島市富士見6丁目1番1号 パイオニア株式会社総合研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】光ディスク及び記録再生装置

## (57) 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

所定のトラックピッチで形成されたグループ及びランドと、所定の開口数(NA)の対物レンズで収束された所定波長(λ)のスポット光により前記グループの走査される方向に沿って所定間隔で前記ランドに形成されたランドプリピットとを有し、情報記録又は情報再生の際に前記グループに位置合わせして照射される前記スポット光により前記グループと共に前記ランドプリピットが走査される情報記録媒体である光ディスクにおいて、

前記グループの前記走査される方向に対して略直交する方向におけるグループ幅(Gw)と、前記各々のランドプリピットの前記走査される方向におけるプリピット長(Lp)が、

$$Gw / ( \lambda / NA ) = 0.2093 \{ Lp / ( \lambda / NA ) \}^2 - 0.4342 Lp / ( \lambda / NA ) + 0.3$$

32

10

の関係を満たしていること、  
を特徴とする光ディスク。

## 【請求項 2】

所定のトラックピッチで形成されたグループ及びランドと、所定の開口数(NA)の対物レンズで収束された所定波長(λ)のスポット光により前記グループの走査される方向に沿って所定間隔で前記ランドに形成されたランドプリピットとを有し、情報記録又は情報再生の際に前記グループに位置合わせして照射される前記スポット光により前記グループと共に前記ランドプリピットが走査される情報記録媒体である光ディスクにおいて、

20

前記グループの前記走査される方向に対して略直交する方向におけるグループ幅(G<sub>w</sub>)と、前記各々のランドプリピットの前記走査される方向におけるプリピット長(L<sub>p</sub>)と、前記グループと前記ランドとの厚み方向のグループ深さ(G<sub>d</sub>; 単位μm)が、

$$\frac{G_w}{( \quad / N_A )} = 0.2093 \{ L_p / ( \quad / N_A ) \}^2 - 0.4342 L_p / ( \quad / N_A ) + 0.332 - (-2.64 G_d + 0.1276)$$

且つ、

$$\frac{G_w}{( \quad / N_A )} = 0.2093 \{ L_p / ( \quad / N_A ) \}^2 - 0.4342 L_p / ( \quad / N_A ) + 0.332 + (-4.48 G_d + 0.2112)$$

の関係を満たしていること、  
を特徴とする光ディスク。

10

### 【請求項3】

所定のトラックピッチで形成されたグループ及びランドと、所定波長( )のスポット光により前記グループの走査される方向に沿って所定間隔で前記ランドに形成されたランドプリピットとを有し、前記グループに位置合わせして照射される前記スポット光により前記グループと共に前記ランドプリピットが走査される情報記録媒体である光ディスクに對して、情報記録又は情報再生を行う記録再生装置において、

前記所定波長( )の光を射出する光源と、

前記光源からの光を収束して前記スポット光を生じさせる、所定開口数(N<sub>A</sub>)の対物レンズとを有し、

前記波長( )と開口数(N<sub>A</sub>)は、

20

前記グループの前記走査の方向に対して略直交する方向におけるグループ幅(G<sub>w</sub>)と、前記各々のランドプリピットの前記走査の方向におけるプリピット長(L<sub>p</sub>)に對して

$$\frac{G_w}{( \quad / N_A )} = 0.2093 \{ L_p / ( \quad / N_A ) \}^2 - 0.4342 L_p / ( \quad / N_A ) + 0.332$$

の関係に設定されていること、

を特徴とする記録再生装置。

### 【請求項4】

所定のトラックピッチで形成されたグループ及びランドと、所定波長( )のスポット光により前記グループの走査される方向に沿って所定間隔で前記ランドに形成されたランドプリピットとを有し、前記グループに位置合わせして照射される前記スポット光により前記グループと共に前記ランドプリピットが走査される情報記録媒体である光ディスクに對して、情報記録又は情報再生を行う記録再生装置において、

30

前記所定波長( )の光を射出する光源と、

前記光源からの光を収束して前記スポット光を生じさせる、所定開口数(N<sub>A</sub>)の対物レンズとを有し、

前記波長( )と開口数(N<sub>A</sub>)は、

前記グループの前記走査の方向に対して略直交する方向におけるグループ幅(G<sub>w</sub>)と、前記各々のランドプリピットの前記走査の方向におけるプリピット長(L<sub>p</sub>)と、前記グループと前記ランドとの厚み方向のグループ深さ(G<sub>d</sub>; 単位μm)に對して、

40

$$\frac{G_w}{( \quad / N_A )} = 0.2093 \{ L_p / ( \quad / N_A ) \}^2 - 0.4342 L_p / ( \quad / N_A ) + 0.332 - (-2.64 G_d + 0.1276)$$

且つ、

$$\frac{G_w}{( \quad / N_A )} = 0.2093 \{ L_p / ( \quad / N_A ) \}^2 - 0.4342 L_p / ( \quad / N_A ) + 0.332 + (-4.48 G_d + 0.2112)$$

の関係に設定されていること、  
を特徴とする記録再生装置。

### 【請求項5】

前記光ディスクはDVD-Rであること、を特徴とする請求項1又は2に記載の光ディスク。

50

**【請求項 6】**

前記光ディスクは D V D - R であること、を特徴とする請求項 3 又は 4 に記載の記録再生装置。

**【発明の詳細な説明】****【0 0 0 1】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、情報の書き込みが可能な光ディスク等の記録再生媒体と、その記録再生媒体を用いる記録再生装置に関するものである。

**【0 0 0 2】****【従来の技術】**

従来、この種の記録再生媒体として、映像や音声、コンピュータデータ等のマルチメディア情報を高密度記録することが可能な D V D (デジタルビデオディスク又はデジタルバーサタイルディスク) が知られている。

**【0 0 0 3】**

また、D V D には、先駆けて普及した再生専用の D V D - R O M のほか、記録再生が可能な D V D - R (追記型 D V D ) と、再書き込みが可能な記録再生型の D V D - R W が知られている。

**【0 0 0 4】**

D V D - R と D V D - R W では、グルーブ (Groove) に情報を高精度且つ高密度で記録するために、物理フォーマットとして、グルーブ間のランド (Land) に、予めアドレス等の各種情報が設定されたランドプリピット (Land pre-pit) と呼ばれるピットを形成しておく方式が提案されている (特開平 9 - 1 7 0 2 9 号公報)。

**【0 0 0 5】**

すなわち、この方式の D V D - R と D V D - R W は、ランドプリピットがグルーブに隣接して形成されている。このため、グルーブ上に光スポットを位置づけて走査すると、ランドプリピット上にも光スポットが入射する状態が生じることとなり、ランドプリピットからの反射光を光検出器などで検出することで、アドレス等の各種情報を有する検出信号を生成できるようになっている。

**【0 0 0 6】****【発明が解決しようとする課題】**

ところで、上記方式を採用する D V D - R と D V D - R W では、ランドプリピットがグルーブに隣接して形成されているため、光スポットをグルーブ上に位置づけて走査すると、光スポットがランドプリピットに入射するときには、必然的にグルーブにも入射することとなる。

**【0 0 0 7】**

したがって、上記の反射光には、ランドプリピットからの反射光だけでなくグルーブからの反射光が含まれることとなり、光検出器等から出力される検出信号にも、ランドプリピットからの反射光成分だけでなくグルーブからの反射光成分が含まれることになる。

**【0 0 0 8】**

このため、ランドプリピットからの反射光成分に対してグルーブからの反射光成分が雑音として作用し、検出信号中からランドプリピットの情報を高精度で検出することが困難となる場合が考えられる。

**【0 0 0 9】**

また、これとは逆に、グルーブに記録されている情報を上記の光スポットによる走査で読み取る場合には、ランドプリピットからの反射光の光量に較べて、グルーブからの反射光の光量変化が小さいと、グルーブからの反射光成分に対してランドプリピットからの反射光成分が雑音として作用し、上記の検出信号中からグルーブの情報を高精度で検出することが困難となる場合が考えられる。

**【0 0 1 0】**

このように、グルーブとランドプリピットで反射されるそれぞれの反射光の光量が適切で

10

20

30

40

50

ないと、グループの情報とランドプリピットの情報を最適状態で検出することができなくなり、ひいては、高精度且つ高密度の記録・再生にとって阻害要因となることが考えられる。

#### 【0011】

しかしながら、従来は、このような発症原因と最適化に関する十分な研究がなされていたとはいえたかった。

#### 【0012】

本発明は、このような新たな課題を提起してなされたものであり、グループとランドプリピット及び光スポットに関する相互間での最適条件を満足する構造を有して高精度且つ高密度での記録再生を安定的に実現し得る記録再生媒体と、その記録再生媒体を用いる記録再生装置を提供することを目的とするものである。 10

#### 【0013】

##### 【課題を解決するための手段】

請求項1に記載の発明は、所定のトラックピッチで形成されたグループと、所定の開口数(NA)の対物レンズで収束された所定波長( )のスポット光により前記グループの走査される方向に沿って所定間隔で前記ランドに形成されたランドプリピットとを有し、情報記録又は情報再生の際に前記グループに位置合わせして照射される前記スポット光により前記グループと共に前記ランドプリピットが走査される情報記録媒体である光ディスクにおいて、前記グループの前記走査される方向に対して略直交する方向におけるグループ幅(Gw)と、前記各々のランドプリピットの前記走査される方向におけるプリピット長(Lp)が、 $Gw / ( / NA ) = 0.2093 \{ Lp / ( / NA ) \}^2 - 0.4342 Lp / ( / NA ) + 0.332$  の関係を満たしていること、を特徴とする。 20

請求項2に記載の発明は、所定のトラックピッチで形成されたグループと、所定の開口数(NA)の対物レンズで収束された所定波長( )のスポット光により前記グループの走査される方向に沿って所定間隔で前記ランドに形成されたランドプリピットとを有し、情報記録又は情報再生の際に前記グループに位置合わせして照射される前記スポット光により前記グループと共に前記ランドプリピットが走査される情報記録媒体である光ディスクにおいて、前記グループの前記走査される方向に対して略直交する方向におけるグループ幅(Gw)と、前記各々のランドプリピットの前記走査される方向におけるプリピット長(Lp)と、前記グループと前記ランドとの厚み方向のグループ深さ(Gd；単位μm)が、 $Gw / ( / NA ) = 0.2093 \{ Lp / ( / NA ) \}^2 - 0.4342 Lp / ( / NA ) + 0.332 - (-2.64Gd + 0.1276)$  且つ、 $Gw / ( / NA ) = 0.2093 \{ Lp / ( / NA ) \}^2 - 0.4342 Lp / ( / NA ) + 0.332 + (-4.48Gd + 0.2112)$  の関係を満たしていること、を特徴とする。 30

#### 【0014】

請求項3に記載の発明は、所定のトラックピッチで形成されたグループと、所定波長( )のスポット光により前記グループの走査される方向に沿って所定間隔で前記ランドに形成されたランドプリピットとを有し、前記グループに位置合わせして照射される前記スポット光により前記グループと共に前記ランドプリピットが走査される情報記録媒体である光ディスクに対して、情報記録又は情報再生を行う記録再生装置において、前記所定波長( )の光を射出する光源と、前記光源からの光を収束して前記スポット光を生じさせる、所定開口数(NA)の対物レンズとを有し、前記波長( )と開口数(NA)は、前記グループの前記走査の方向に対して略直交する方向におけるグループ幅(Gw)と、前記各々のランドプリピットの前記走査の方向におけるプリピット長(Lp)に対して、 $Gw / ( / NA ) = 0.2093 \{ Lp / ( / NA ) \}^2 - 0.4342 Lp / ( / NA ) + 0.332$  の関係に設定されていること、を特徴とする。 40

請求項4に記載の発明は、所定のトラックピッチで形成されたグループと、所定波長( )のスポット光により前記グループの走査される方向に沿って所定間隔で前記ランドに形成されたランドプリピットとを有し、前記グループに位置合わせして照射される前記スポット光により前記グループと共に前記ランドプリピットが走査される情報記

10

20

30

40

50

録媒体である光ディスクに対して、情報記録又は情報再生を行う記録再生装置において、前記所定波長(λ)の光を射出する光源と、前記光源からの光を収束して前記スポット光を生じさせる、所定開口数(NA)の対物レンズとを有し、前記波長(λ)と開口数(NA)は、前記グループの前記走査の方向に対して略直交する方向におけるグループ幅(Gw)と、前記各々のランドプリピットの前記走査の方向におけるプリピット長(Lp)と、前記グループと前記ランドとの厚み方向のグループ深さ(Gd；単位μm)に対して、 $G_w / (λ / NA) = 0.2093 \{ L_p / (λ / NA) \}^2 - 0.4342 L_p / (λ / NA) + 0.332 - (-2.64 G_d + 0.1276)$  且つ、 $G_w / (λ / NA) = 0.2093 \{ L_p / (λ / NA) \}^2 - 0.4342 L_p / (λ / NA) + 0.332 + (-4.48 G_d + 0.2112)$  の関係に設定されていること、を特徴とする。

10

## 【0017】

## 【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。尚、光ディスクであるDVD-RとDVD-RWの実施形態について説明する。図1(a)は、本実施形態のDVD-RとDVD-RWの基本構造を模式的に示す斜視図、図1(b)は、本実施形態のDVD-RとDVD-RWのラジアル方向の縦断面構造を模式的に示す断面図である。

## 【0018】

図1(a)において、DVD-RとDVD-RW(以下、これらを光ディスクと総称する)の情報が書き込まれる領域、すなわち、リードインとリードアウト及びプログラム領域には、グループ1が、本光ディスクの回転中心に設けられている所謂クランピングエリア(図示略)を中心とする螺旋状の連続したトラックに沿って、又はクランピングエリアを中心とする同心円状の多数トラックに沿って、一定のトラックピッチで形成されている。

20

## 【0019】

更に、上記の螺旋状のトラックと同心円状のトラックの何れのトラックに沿って形成される場合にも、光走査方向tに対して略直交する方向(ラジアル方向)rの縦断面を見ると、同図(b)に示すように、多数のグループ1が一定のトラックピッチで形成された構造となっている。

## 【0020】

グループ1のそれぞれの両側には、ラジアル方向rにおける各グループ1の間を分離するためのランド2が併設されている。また、ランド2には、物理フォーマットとして、アドレス等の各種情報が予め設定されたランドプリピット3が、線走査方向tに沿って所定間隔で形成されている。

30

## 【0021】

グループ1とランド2及びランドプリピット3は、ポリカーボネート等の透明樹脂を材料とする透明基板4上に形成され、グループ1とランド2及びランドプリピット3の下面には、有機色素や無機金属を材料とする記録層5と、アルミ蒸着や金蒸着による反射層6が積層され、更に、反射層6の下面にはUV硬化性樹脂(紫外線硬化性樹脂)等を材料とする保護層7が形成されている。

## 【0022】

そして、記録又は再生のための光が、光ピックアップ装置等に設けられている対物レンズ8を通して、透明基板4側からグループ1上にスポット照射されるようになっている。

40

## 【0023】

かかる構造の光ディスクにおいて、グループ1のラジアル方向rにおける幅(以下、グループ幅という)Gwと、ランドプリピット3の線走査方向tにおける長さ(以下、プリピット長という)Lpと、ランド2の底面からグループ1の頂面までの高さ(以下、グループ深さという)Gdが、後述する最適条件を満足するように予め設定されている。

## 【0024】

次に、本光ディスクを用いて情報記録と情報再生を行うための原理について図2(a)(b)を参照して説明する。

## 【0025】

50

図2(a)において、光ピックアップ装置等により、光源であるレーザダイオードから射出される所定波長の光をコリメータレンズで集光し、更にこのコリメータレンズから射出される光を図1(a)中に示す対物レンズ8で収束してグループ1の頂面上を照射することにより、略円形状の光スポットSPがグループ1の中心(グループ幅Gwの中心)に合わせて結ばれるようとする。

#### 【0026】

そして、本光ディスクを回転させることにより、光スポットSPをグループ1に位置づけて相対的に線走査方向tに沿って走査させる。また、光スポットSPの直径rをグループ幅Gwより大きくすることで、光スポットSPが部分的にランドプリピット3に照射されるようする。

10

#### 【0027】

更に、光スポットSPをグループ1に位置づけて相対的に線走査方向tに沿って走査させる際に、光スポットSPがグループ1又はグループ1及びランドプリピット3の両方で反射されて生じる反射光を対物レンズ8で集光し、その集光された反射光を、図2(b)に示すような光検出器9で受光し、更に、光検出器9から出力される検出信号を加減算回路10, 11, 12等で信号処理することにより、ランドプリピット検出信号S<sub>Lp</sub>とトラッキングエラー信号S<sub>TE</sub>及びRF信号S<sub>RF</sub>等を生成させる。

#### 【0028】

ここで、光検出器9は、一例として、幾何学的に同一形状で受光感度が共に等しい4個の受光領域9A, 9B, 9C, 9Dを有する受光素子等で形成する場合を示している。この場合には、これらの受光領域9A, 9B, 9C, 9Dの中心位置に、光スポットSPによる反射光の中心が来るよう預め調整しておく。

20

#### 【0029】

すなわち、図2(a)(b)中に模式的に示すように、光スポットSPの4等分された各領域A, B, C, Dからの反射光が各受光領域9A, 9B, 9C, 9Dに対応づけて入射するようする。尚、領域AとDは、光スポットSPがグループ1だけに当たる領域、領域BとCは、光スポットSPがグループ1だけでなくランドプリピット3にも当たる領域を示している。

#### 【0030】

加減算回路10は、光検出器9から各受光領域毎に出力される検出信号A, B, C, Dについて、(A + D) - (B + C)の演算を行い、この演算結果を所定カットオフ周波数のハイパスフィルタに供給することで、ランドプリピット3からの情報を表すランドプリピット検出信号S<sub>Lp</sub>を生成する。加減算回路11は、(A + D) - (B + C)の演算を行うことにより、トラッキングサーボ用のトラッキングエラー信号S<sub>TE</sub>を生成し、加減算回路12は、(A + B + C + D)の演算を行うことにより、グループ1の情報を表すRF信号S<sub>RF</sub>を生成する構成する。

30

#### 【0031】

次に、グループ1のグループ幅Gwと、ランドプリピット3の線走査方向tにおけるプリピット長Lpと、ランド2の底面からグループ1の頂面までのグループ深さGdの最適条件について説明する。

40

#### 【0032】

図2(b)を参照して説明した原理に基づいてランドプリピット検出信号S<sub>Lp</sub>とRF信号S<sub>RF</sub>等を生成する一般的な記録再生装置では、光スポットSPがグループ1とランドプリピット3に同時に結ばれると、発明が解決しようとする課題において前述したような問題が発生することが考えられる。

#### 【0033】

そこで、本発明者は、光ディスクの構造を最適設計する前に、問題の発症原因を確認するために、図3(a)～(c)に示すような実験結果を求めた。

#### 【0034】

図3(a)～(c)は、ランドプリピット3を備えたDVD-RWについて、光スポット

50

ト S P の波長 と対物レンズ 8 の 開口数 N A 及び線走査速度をそれぞれ一定にしておき、図 2 ( b ) の光検出器 9 と加減算器 10 , 12 によって実験的に得られた未記録部のランドプリピット検出信号  $S_{LP}$  と R F 信号  $S_{RF}$  の振幅変化を計測したものである。尚、横軸は時間、縦軸は電圧であり、これらの信号  $S_{LP}$  と  $S_{RF}$  の相対的な変動を示すために、各ディメンジョンを等しくしている。

#### 【 0 0 3 5 】

更に、同図 ( a ) は、プリピット長  $L_p$  を  $0.3 \mu m$  、グループ幅  $G_w$  を  $0.25 \mu m$  に設定した場合を示し、同図 ( b ) は、 $L_p = 0.3 \mu m$  、 $G_w = 0.30 \mu m$  に設定した場合、同図 ( c ) は、 $L_p = 0.3 \mu m$  、 $G_w = 0.40 \mu m$  に設定した場合を示している。

#### 【 0 0 3 6 】

これらの実験結果から、プリピット長  $L_p$  とグループ幅  $G_w$  が異なると、ランドプリピット 3 に光スポット S P が照射された時点  $t$  におけるそれぞれの信号  $S_{LP}$  ,  $S_{RF}$  の電圧振幅が変動することが確認された。

#### 【 0 0 3 7 】

更に、図 4 ( a ) ~ ( c ) のそれぞれは、グループ 1 に情報が書き込まれている光ディスクから読み出したランドプリピット検出信号  $S_{LP}$  と R F 信号  $S_{RF}$  の振幅変化を、図 3 ( a ) ~ ( c ) に対応させて示したものである。図 4 ( a ) ~ ( c ) の実験結果から明らかのように、プリピット長  $L_p$  とグループ幅  $G_w$  が異なると、記録済みの光ディスクの場合にも、ランドプリピット 3 に光スポット S P が照射された時点におけるそれぞれの信号  $S_{LP}$  ,  $S_{RF}$  の電圧振幅が変動することが確認された。

#### 【 0 0 3 8 】

そして、この変動原因がグループ 1 とランドプリピット 3 及び光スポット S P の大きさとの相関関係に基づいていること着目して、グループ幅  $G_w$  とプリピット長  $L_p$  及びグループ深さ  $G_d$  の幾何学的関係を、光スポット S P の大きさと連関させて最適化することとした。

#### 【 0 0 3 9 】

まず、最適条件の結論を説明すると、対物レンズ 8 の開口数 N A と光スポット S P の波長 の比 ( $\lambda / N A$ ) でその光スポット S P の大きさと近似し直径  $r$  とし、更に、直径  $r$  とグループ幅  $G_w$  の比 ( $G_w / r$ ) が、次式 ( 1 ) ( 2 ) を同時に満足する範囲内になるように、上記のグループ幅  $G_w$  、プリピット長  $L_p$  、グループ深さ  $G_d$  ( 但し、単位は  $\mu m$  ) 、開口数 N A 及び波長  $\lambda$  を決定することにより、光ディスクを最適設計することができる。

#### 【 0 0 4 0 】

$$\begin{aligned} G_w / (\lambda / N A) &= 0.2093 \{ L_p / (\lambda / N A) \}^2 \\ &\quad - 0.4342 L_p / (\lambda / N A) + 0.332 - (-2.64 G_d + 0.1276) \dots (1) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} G_w / (\lambda / N A) &= 0.2093 \{ L_p / (\lambda / N A) \}^2 \\ &\quad - 0.4342 L_p / (\lambda / N A) + 0.332 + (-4.48 G_d + 0.2112) \dots (2) \end{aligned}$$

上記式 ( 1 ) ( 2 ) の条件にしたがって光ディスクを設計すると、図 2 ( b ) に示したような一般的な記録再生装置に適用した場合に、光スポット S P がグループ 1 とランドプリピット 3 に同時に照射されたときでも、その反射光からランドプリピット検出信号  $S_{LP}$  と R F 信号  $S_{RF}$  を高い精度で検出することが可能となる。

#### 【 0 0 4 1 】

次に、図 5 ~ 図 13 を参照して、上記式 ( 1 ) ( 2 ) を検証する。

図 5 ~ 図 8 は、グループ幅  $G_w$  、プリピット長  $L_p$  、グループ深さ  $G_d$  、波長  $\lambda$  及び開口数 N A を様々に変化させ、それによって得られたランドプリピット検出信号  $S_{RF}$  をどの程度高い精度で検出することができたかを実験によって求めた特性図である。

#### 【 0 0 4 2 】

尚、これらの図 5 ~ 図 8 において、ランドプリピット検出信号  $S_{LP}$  と R F 信号  $S_{RF}$  をどの程度高い精度で検出することができたか判定するための基準として、横軸をグループ幅  $G_w$  に対する直径  $r$  の比、すなわち、 $G_w / (\lambda / N A)$  とし、縦軸を R F 信号  $S_{RF}$  のオフ

10

20

30

40

50

セットレベル (offset) に対するランドプリピット検出信号  $S_{LP}$  の電圧振幅 (LPP level) の比 (LPP level / offset) とし、更に、グループ深さ  $Gd$  とプリピット長  $Lp$  を変化させることとした。ここで、比 (LPP level / offset) とは、ランドプリピット検出信号  $S_{LP}$  の電圧振幅 (LPP level) を分子、RF 信号  $S_{RF}$  のオフセットレベル (offset) を分母として定義されるものである。

#### 【0043】

また、オフセットレベル (offset) は、図 3 (a) ~ (c) に示した RF 信号  $S_{RF}$  の交流成分を RF 信号  $S_{RF}$  の直流成分で規格化したパラメータ、電圧振幅 (LPP level) は、ランドプリピット検出信号  $S_{LP}$  を RF 信号  $S_{RF}$  の直流成分で規格化したパラメータである。

#### 【0044】

より具体的には、RF 信号  $S_{RF}$  の交流成分を  $S_{RF(AC)}$  で表すものとすると、オフセットレベル (offset) は次式 (3) で、電圧振幅 (LPP level) は次式 (4) で、更に、比 (LPP level / offset) は次式 (5) でそれぞれ表される。

$$\text{offset} = (S_{RF(AC)} / S_{RF}) \dots (3)$$

$$\text{LPP level} = (S_{LP} / S_{RF}) \dots (4)$$

$$\text{LPP level / offset} = (S_{LP} / S_{RF(AC)}) \dots (5)$$

そして、図 5 ~ 図 8 において、グループ  $Gd$  を 20 nm ~ 35 nm の範囲で 5 nm ずつ変化させ、更に、図 5 は、 $Lp / ( / NA ) = 0.128$  に設定し、図 6 は、 $Lp / ( / NA ) = 0.2515$  に設定し、図 7 は、 $Lp / ( / NA ) = 0.3815$  に設定し、図 8 は、 $Lp / ( / NA ) = 0.505$  にそれぞれ設定して計測したときの結果を示している。

#### 【0045】

これらの図 5 ~ 図 8 から明らかなように、ランドプリピット検出信号  $S_{LP}$  と RF 信号  $S_{RF}$  をどの程度高い精度で検出できたか表す「LPP level / offset」の値が約 10 のときを境にして計測結果が大きく変化し、「LPP level / offset」が最大値になるときが、最も良い設計条件であることが確認された。

#### 【0046】

すなわち、LPP level / offset 10 が、ランドプリピット検出信号  $S_{LP}$  と RF 信号  $S_{RF}$  とを高い精度で検出するための変曲点であることが確認された。このように、2つの変曲点の範囲内では、得られる特性が良いので、この範囲内の値を使うことで、良好な記録媒体が得られる。

#### 【0047】

そこで、これらの図 5 ~ 図 8 に示す実験結果に基づいて、グループ深さ  $Gd$  をパラメータとしたときの  $Lp / ( / NA )$  と  $Gw / ( / NA )$  の関係を求めたのが、図 9 ~ 図 12 に示す特性図である。

#### 【0048】

尚、図 9 ~ 図 12 において、1点鎖線で示す曲線  $G_{wo}$  は、図 5 ~ 図 8 中の「LPP level / offset」が最大値になる場合をプロットして示し、2点鎖線で示す曲線  $G_+$  と実線で示す曲線  $G_-$  は、図 5 ~ 図 8 中の「LPP level / offset」が約 10 なる場合をプロットして示したものである。更に、2点鎖線で示す曲線  $G_+$  は、図 5 ~ 図 8 中の右側の位置で約 10 になる場合、実線で示す曲線  $G_-$  は、図 5 ~ 図 8 中の左側の位置で約 10 になる場合である。

#### 【0049】

よって、図 9 ~ 図 12 において、曲線  $G_+$  と曲線  $G_-$  で挟まれた範囲  $G_{w+}$  と  $G_{w-}$  が、最適設計のための条件であることが分かる。尚、図 9 ~ 図 12 中の1点鎖線で示す曲線  $G_{wo}$  はほとんど変化せず、次式 (6) で近似することができる。

$$Gw / ( / NA ) = 0.2093 \{ Lp / ( / NA ) \}^2 - 0.4342 Lp / ( / NA ) + 0.332 \dots (6)$$

また、図 9 ~ 図 12 により、曲線  $G_+$  と  $G_-$  は、曲線  $G_{wo}$  を平行移動させたものにほぼ等しいことが分かる。したがって、その平行移動量をそれぞれの範囲  $G_{w+}$  と  $G_{w-}$  として、図 9 ~ 図 12 の結果を、グループ幅  $Gd$  と  $G_{w+} / ( / NA )$  の関係と、グループ深さ  $Gd$  と  $G$

10

20

30

40

50

$w_- / ( \quad / N A )$  の関係に転写して表すと、図 13 に示す結果が得られ、図 13 中の曲線  $G_{w+}$  と曲線  $G_{w-}$  で挟まれた範囲が最適設計のための条件となる。尚、図 13 中の曲線  $G_{w+}$  は次式(7)で、曲線  $G_{w-}$  は次式(8)で近似することができる。

$$G_w / ( \quad / N A ) = -4.48 G_d + 0.2112 \quad \dots (7)$$

$$G_w / ( \quad / N A ) = -2.64 G_d + 0.1276 \quad \dots (8)$$

そして、図 13 の曲線  $G_{w+}$  と曲線  $G_{w-}$  で挟まれた範囲を求めた結果、上記式(1)(2)が得られた。すなわち、上記式(6)が最も良い設計条件であることから、これを基準として上記式(7)と(8)を適用すると、上記式(1)(2)が最適設計条件として求められる。

#### 【0050】

10  
このように本実施形態の光ディスクは、上記式(1)(2)の条件に基づいて、グループ1のグループ幅  $G_w$  と、ランドプリピット3のプリピット長  $L_p$  と、グループ深さ  $G_d$  と、光スポット SP の大きさ(直径  $r$ )の形状が決められているので、グループ1とランドプリピット3で反射される反射光を常に最適な光量に設定することができる。すなわち、グループ1の情報とランドプリピット3の情報を高精度で検出することができるように、グループ1とランドプリピット3で反射される反射光を常に最適な光量に設定することができる。そして、グループ1の情報とランドプリピット3の情報を高精度で検出することができるため、高密度での記録・再生を安定的に実現し得る光ディスクを提供することができる。

#### 【0051】

20  
また、上記式(1)(2)に基づいて、記録再生媒体に備えられている光源の射出光の波長と対物レンズの開口数を設定することにより、高密度の光ディスクを用いて安定的に記録・再生を行うための記録再生媒体を実現することができる。

#### 【0052】

##### 【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、所定開口数の対物レンズで収束された所定波長の光がグループに位置づけて走査される記録再生媒体において、グループ幅と、プリピット長と、グループ深さを、所定の最適条件に基づいて形成したので、グループからの反射光とランドプリピットからの反射光のそれぞれの光量が、グループの情報とランドプリピットの情報とを最適状態で検出することが可能となり、ひいては高精度且つ高密度での記録・再生を安定的に実現することができる。

#### 【0053】

また、所定波長の光を射出する光源と、グループとグループ間のランドにランドプリピットとが形成されている記録再生媒体の上記グループに位置づけて、上記光源からの光を収束して走査する所定開口数の対物レンズとを備えた記録再生装置において、上記の波長と開口数を、記録再生媒体のグループ幅とランドプリピットのプリピット長と、グループとランドとの厚み方向のグループ深さに対して、所定の最適条件に基づいて設定したので、グループからの反射光とランドプリピットからの反射光のそれぞれの光量を、グループの情報とランドプリピットの情報とを最適状態で検出するための光量に設定することができる。この結果、高精度且つ高密度での記録・再生を安定的に実現することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本実施形態の光ディスクの構造を模式的に示す図である。

【図2】本実施形態の光ディスクからランドプリピットの情報を読み出すための原理を説明するための説明図である。

【図3】未記録状態の光ディスクから読み出したランドプリピット検出信号とRF信号の波形を示す波形図である。

【図4】記録済み状態の光ディスクから読み出したランドプリピット検出信号とRF信号の波形を示す波形図である。

【図5】ランドプリピット検出信号とRF信号とが最適状態で検出されたかを判断するための説明図である。

10

20

30

40

50

【図6】更に、ランドプリピット検出信号とRF信号とが最適状態で検出されたかを判断するための説明図である。

【図7】更に、ランドプリピット検出信号とRF信号とが最適状態で検出されたかを判断するための説明図である。

【図8】更に、ランドプリピット検出信号とRF信号とが最適状態で検出されたかを判断するための説明図である。

【図9】更に、ランドプリピット検出信号とRF信号とが最適状態で検出されたかを判断するための説明図である。

【図10】更に、ランドプリピット検出信号とRF信号とが最適状態で検出されたかを判断するための説明図である。

【図11】更に、ランドプリピット検出信号とRF信号とが最適状態で検出されたかを判断するための説明図である。

【図12】更に、ランドプリピット検出信号とRF信号とが最適状態で検出されたかを判断するための説明図である。

【図13】更に、ランドプリピット検出信号とRF信号とが最適状態で検出されたかを判断するための説明図である。

【符号の説明】

1 … グループ

2 … ランド

3 … ランドプリピット

4 … 透明基板

5 … 記録層

6 … 反射層

7 … 保護層

8 … 対物レンズ

9 … 光検出器

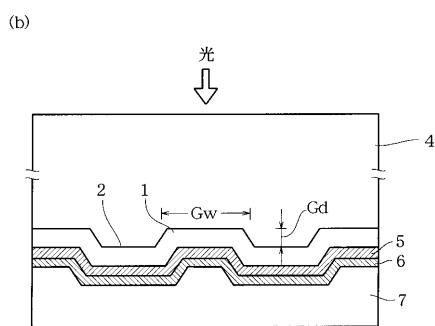
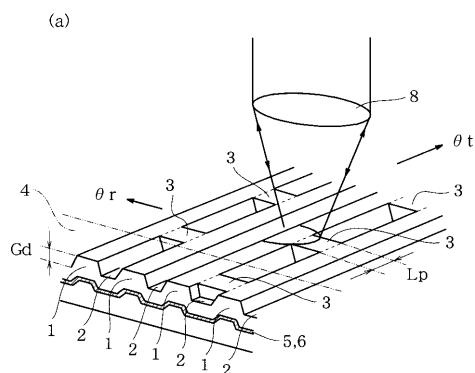
10 ~ 12 … 加減算回路

S P … 光スポット

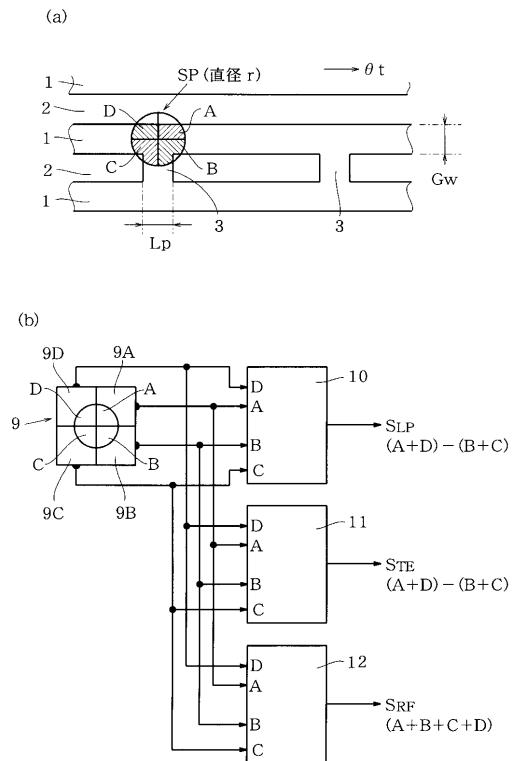
10

20

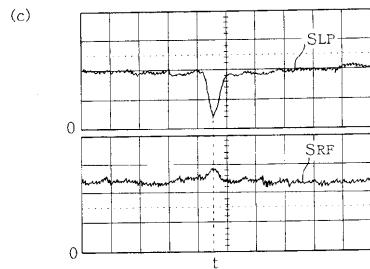
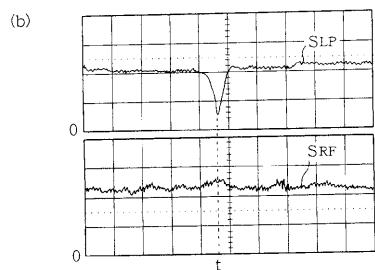
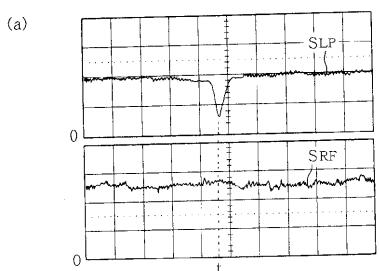
【図1】



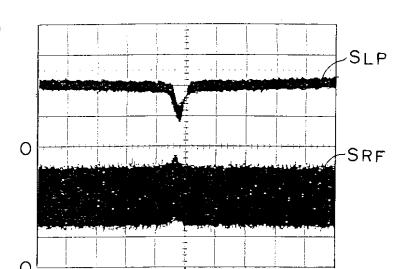
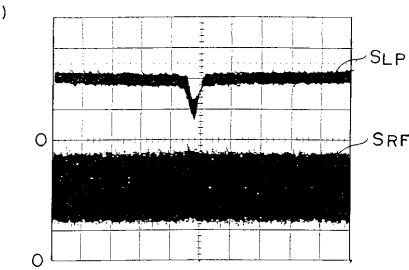
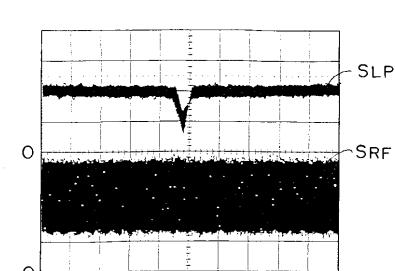
【図2】



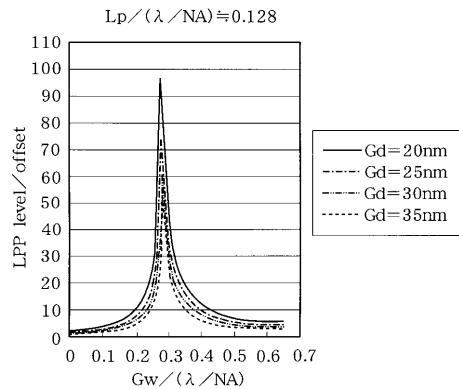
【図3】



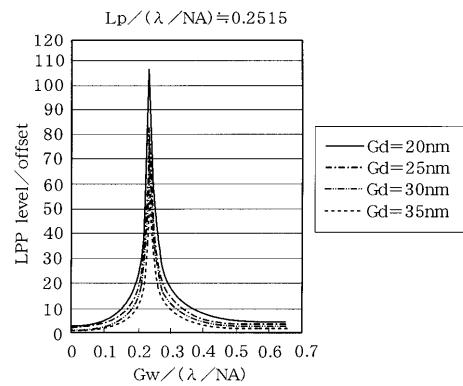
【図4】



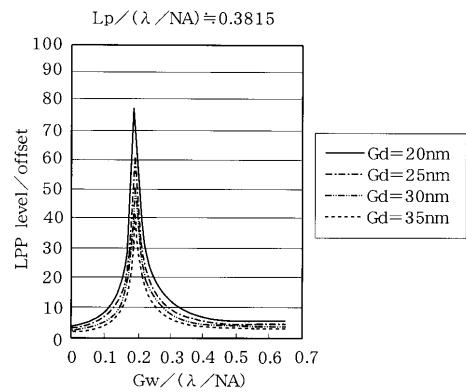
【図5】



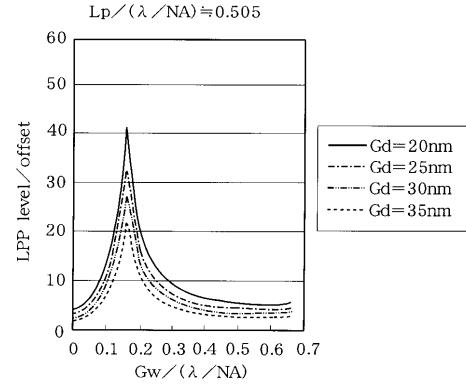
【図6】



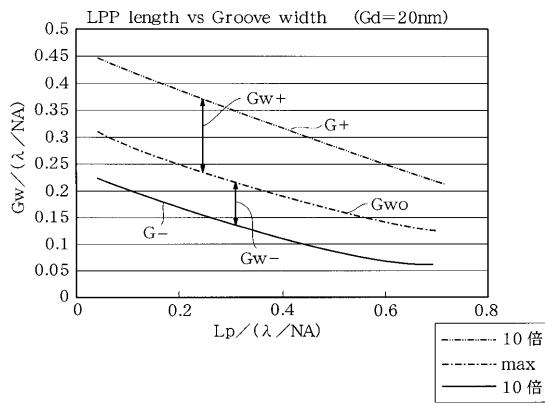
【図7】



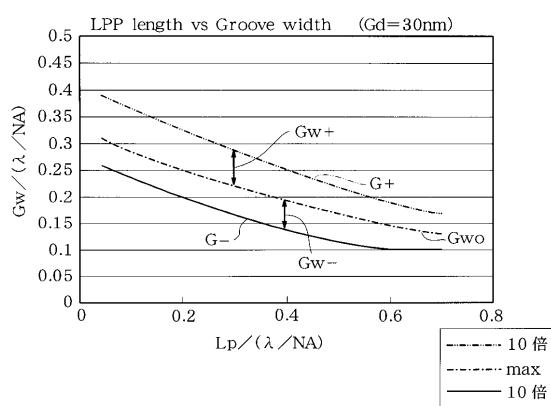
【図8】



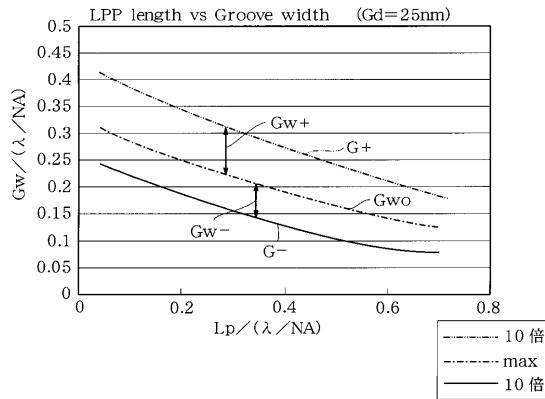
【図9】



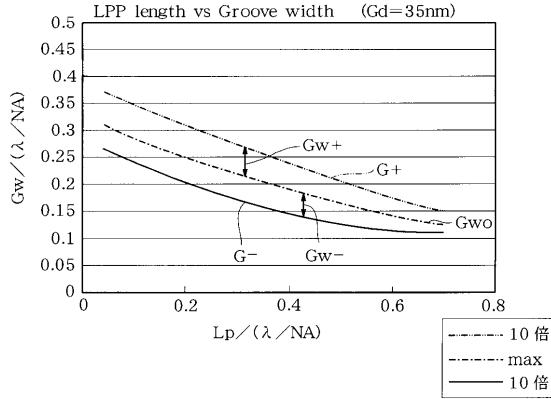
【図11】



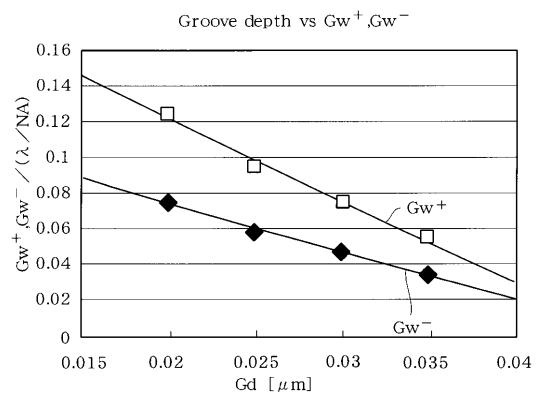
【図10】



【図12】



【図 1 3】



---

フロントページの続き

審査官 藤原 敬利

(56)参考文献 特開平10-208304(JP,A)

特開平10-264518(JP,A)

特開平08-321077(JP,A)

特開平07-073475(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G11B 7/24

G11B 7/007

G11B 7/135